

平成 15 年度全国都市再生モデル調査
防災対策を考慮した水と緑のネットワーク再生事業検討業務
概要

1.応募団体名	特定非営利活動法人 江東区の水辺に親しむ会 理事長 飯田倭子 (連絡先) 電話 03-5639-2818 E-Mail sunaga@talo-city.co.jp
2.調査名	防災対策を考慮した水と緑のネットワーク再生事業検討業務
3.推薦団体名	江東区政策経営部企画課 (担当 鈴木孝志) (連絡先) 03-3647-9167
4.調査の対象地域	
(1)対象となる行政区 域名、地区名	東京都江東区全域
(2)対象となる行政区 域又は地区の特徴	住民基本台帳人口 397,523 人 + 外国人登録人口 13,964 人 計 411,487 人 (H16.3.1 現在) 参考: 前年同月より、約 9,000 人増 区内のほぼ全域が江戸時代からの埋立地で多くの掘割、運河、河川が 存在。北部: 密集市街地、中南部: 商工業地域、臨海部: 港湾地区。
5.提案した活動の内容	
(1)テーマ、課題	水と緑の活用による防災意識の向上と市民との連携 舟運も考慮した防災施設等の一体的な整備
(2)本調査費による活 動内容の概要	(1)本調査費により行われた活動内容の概要 災害に関する意識と水と緑の利用に関するアンケート調査 10 月 18~19 日実施、木場公園において開催された区民祭内にて実 施。対話形式で来場者に対して災害に対する考え方、水と緑の利用に ついて聞く。サンプル数 334。対話形式の調査によって、調査員と被 験者との間でコミュニケーションが生まれ、相互に防災に関する理解 が深まった。  写真: 対話形式で行われたアンケート調査(10月18~19日実施) 災害に関する意識と水と緑の利用に関するヒアリング調査 12 月 ~3 月にかけて 12 団体を対象に実施。区内の行政機関、学校、民間 企業、各種区民団体を対象に、災害に対する考え方、水と緑の利用に ついて聞く。ヒアリングの訪問をきっかけとして、後述のワークショ ップの参加を促すことができるなど、地域の各主体のネットワークが できつつある。

ワークショップ

2 回開催(2 月 10 日、3 月 10 日)。区、都、国、地元大学教授や学生、
地元商店会、区立小学校、提案者 NPO の会員、約 30 名が参加。



写真: 大学、商店会、小学校、行政、NPO が集まって防災について
討論を実施


内部河川の船舶航行に関する調査 1 月~2 月にかけて既存の船着
場における水深計測調査、桁下高の調査を実施。東京海洋大学の船舶
を借りて実施。



写真: 東京海洋大学の協力による船着場の水深計測調査

水辺の緑地・散策路と災害時活用に関する調査
内部河川沿いの緑地・散策路の災害時活用に向けた課題を把握するた
めの実踏調査を 2 月に実施。

(2)本調査以外の経費による、本調査以外の関連する活動内容の概要
東京湾から見た東京の風景見学会・ワークショップ
東京海洋大学と提案者 NPO の主催によるワークショップを実施。大

	<p>学の練習船で港湾設備、臨海部開発等の説明を受けながら見学。下船後、水辺と市民利用のあり方について、提案者 NPO が本事業について話題提供しパネルディスカッションを行った。11月27日、3月10日の計2回実施。</p>  <p>写真：東京湾から見た東京の風景見学会 左：東京ディズニーランド沖、右、パネルディスカッション</p>
<p>6.本調査と関連する活動実績(提案者とは別主体の活動)</p>	<p>美しいまちシンポジウム 都市計画家協会主催の「美しいまちシンポジウム」に参加し、本調査を含む提案者 NPO の活動内容を報告。ほか、全国より計9都市におけるまちづくりの活動主体によるパネルディスカッションを行った。3月20日実施。 (都市計画家協会 WEB サイト) http://www.mmjp.or.jp/jsurp/</p>
<p>7.本調査の成果等、本調査の実施過程で顕在化した課題など</p>	<p>防災対策を考慮した水と緑のネットワーク化に向けた課題について、以下のものが挙げられる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 豊富な内水面と緑地が防災に生かされていない。 2) 地域防災計画に水が生かされていない。 3) 震災時には水上輸送の可能性がある 4) 住民の水を利用した防災意識は低い、親水公園の利用率は高い。 <p>これらの課題から、以下のような検討課題を整理した。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 平常時における水と緑のネットワークの利活用 平常時における災害に向けた取り組みが必要であり、既存の防災施設の利活用も含め、水と緑に親しみをもち接する機会を作ることが重要である。 2) 民間、住民を含めた役割分担の明確化 地方自治体のみが災害対応マニュアル(地域防災計画)を策定しているが、その中で区民との役割分担が不明瞭である。災害発生時には自治体自身も被災するので、自治体のみには頼らない自立した役割分担が必要である。 3) 防災を考慮した土地利用・施設設計に関する規制誘導の必要性 水と緑のネットワークが災害時に活用されるためには、区民が平常時より親しみをもち接することが重要であるが、より親しみやすい空間とするための景観作りが重要である。水と緑のネットワーク化に向けた土地利用規制、建築規制などのアプローチが必要である。

平成 15 年度全国都市再生モデル調査
 防災対策を考慮した水と緑のネットワーク再生事業検討業務
 報告書 一部抜粋

(1) 内部河川航行調査

これまでの乗船場付近の水深調査において、各乗船場と隅田川を結ぶ通航路についての調査を行なった。ここではさらに別の通航路により、江東区の中央部へ至る通航路を調査した。今回の調査では大横川、平久川、仙台堀川、大横川を通航して豊洲まで至る橋梁地点での水深と橋梁桁下高さを計測した。今回の通航路を図 2-3-11 に示す。また橋梁地点の水深と橋梁桁下高さの計測値を表 2-3-6 に示す。さらに通航路における橋梁を写真 2-3-1~2-3-17 に示す。今回の計測結果からもし、今回の通航路を利用すれば、水深は AP 値で 2.0m 程度が確保されているが、大和橋付近、南辻橋付近がそれぞれ 1.3m、1.4m と水深が小さい。また桁下高さをみると殆どの橋梁で 3.0m が確保されているが、大栄橋、菊川橋がそれぞれ 2.9m、2.8m と低い値になっている。

今回の通航路において護岸の状態をみると、小名木川より北の大横川の護岸は遊歩道がほぼ等間隔に低くなっており、そこから物資の陸揚げや人間の乗下船が容易に行なえそうなことや、木場公園付近は大きな空間があり、江東区の中心部の防災基地として有効に機能すると思われるが、この付近に物資の陸揚げや人間の乗下船に使える護岸や乗船場がないことがわかった。

また、いくつかの通航路において桁下高さが低い橋梁があり、これが通航の障害となり、通航船舶の水面上高さが制限される。例えば、小名木川における西深川橋、大横川における越中島公園連絡橋、大横川と仙台堀川の交差点にある、茂森橋(写真 2-3-18)や大栄橋などである。通航路における桁下高さの確保は水深の確保と同様に重要な事項である。



写真 2-3-2 巴橋 ()

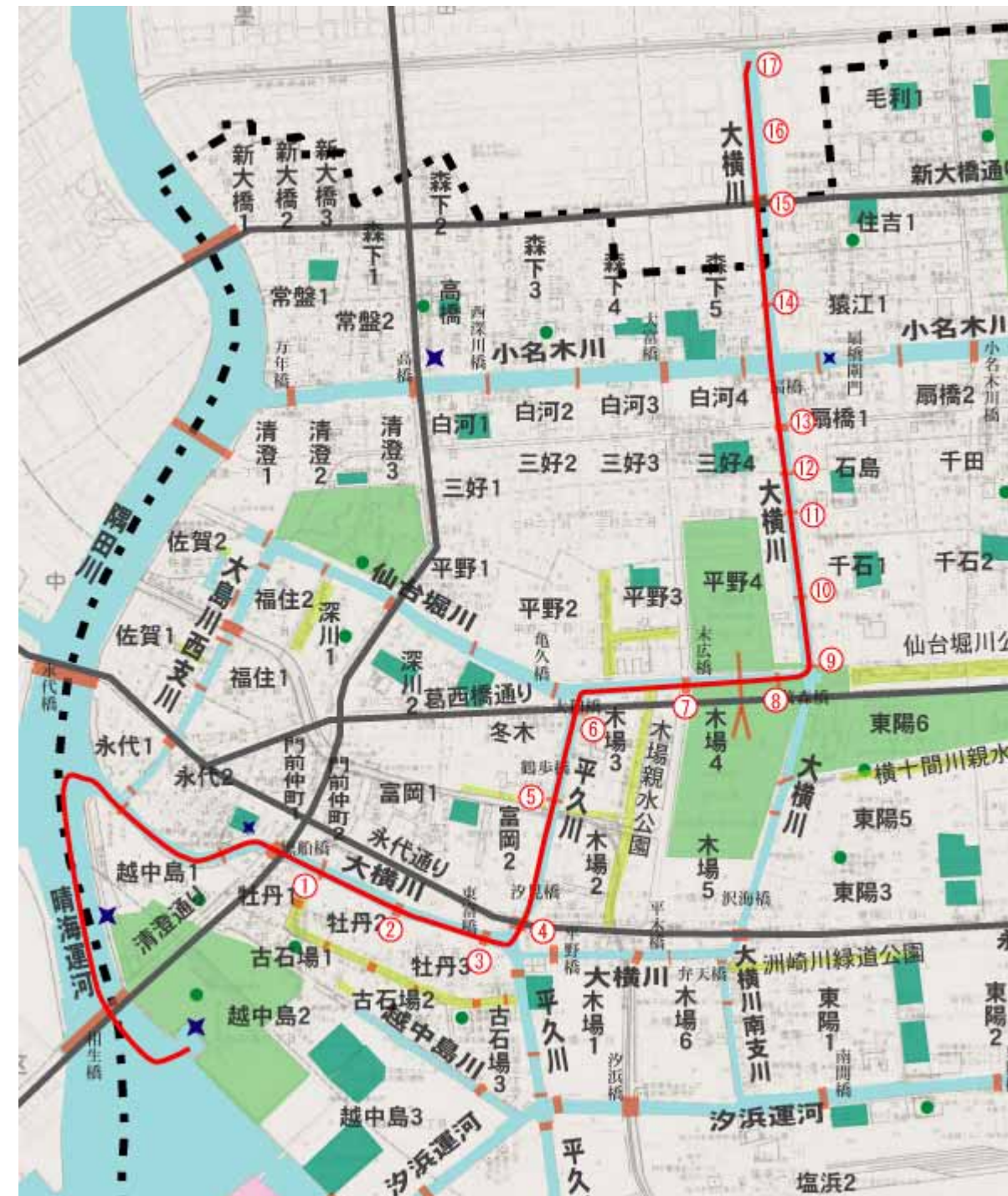


図 2-3-11 江東区内部河川調査通航路

2) 東京商船大学一带



a. 地区内の概要

東京商船大学一带を避難場所とする地区の割当町丁目は、永代1~2丁目、門前仲町1~2丁目、牡丹1~3丁目、古石場1~3丁目、越中島1~3丁目である。この避難場所に避難する計画人口は30,100人である²⁰⁾。

この地区内の主な特徴として、以下の通りである。

- ア) 晴海運河、大横川、平久川、汐浜運河、豊洲運河に囲まれた越中島のほか、大横川を挟んで永代地区と門前仲町地区がある。
- イ) 大横川にはテラス状の散策路が設けられているが、他の河川は立入ができないテラスやテラスのない護岸になっている。晴海運河沿いには都の船着場があり、比較的広い河川敷がある。



写真 2-4-6 両岸にテラス状の散策路がある大横川（左は通行可、右は立ち入り禁止）



写真 2-4-7 両岸に立ち入りできないテラスがある平久川



写真 2-4-8 立ち入りできないテラスがある汐浜運河

ウ) 大横川の北側の地区には避難所となる施設が少なく、永代1丁目地区には避難所がない。

エ) 越中島川は行き止まりの運河で、屋形船などが係留されている。



写真 2-4-10 多くの船が係留されている越中島川

オ) 地区内には3箇所の船着場がある²⁰⁾。



写真 2-4-13 東京海洋大学(旧東京商船大学)の敷地内にある船着場

b. 防災を考慮した水と緑のネットワークへ向けた課題と提案

ア) 水辺の散策路の全通

大島川西支川、大横川はそれぞれ、両岸がテラス状の護岸になっていて、人が立ち入れる箇所と、立入禁止の箇所がある。大横川ではテラスが整備されているので、立入禁止の柵を開放するだけで通行可能となる。

大島川西支川は護岸改修によってテラス状に川に迫り出しているが、建物の裏手に面しているが、当該建物の住民らの避難路としても活用できる。また河川上に多く停泊している船を活用して、所有者に対して緊急時に稼働させるよう協力を求めることも考えられる。



写真 2-4-14 立入禁止のテラスの活用



写真 2-4-15 建物の裏手にあって立入できない護岸の活用

ウ) 古石場親水公園と避難場所の連絡

地区内に東西に伸びる古石場親水公園も延焼防止効果を持った避難路として活用できる。古石場親水公園へのアクセスについても改善する必要がある。



写真 2-4-16 テラス状護岸の歩道整備と古石場親水公園の接続

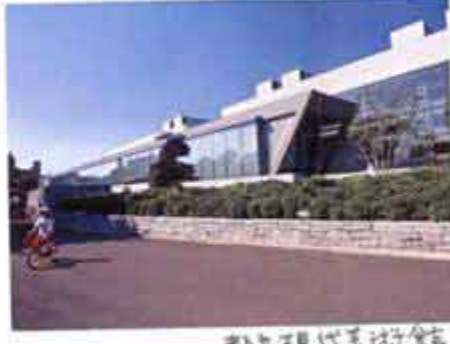
イ) 数ある船着場を活用するための船舶

大島川西支川や越中島川には、多くの船が停泊している。これらの船を活用した避難の方法が考えられる。当地区には船着場が3箇所あり、かつ避難場所である東京海洋大学（旧東京商船大学）にも船着場があるので、高齢者や身体障害者など避難時に歩行が困難な人の移送に活用できると考えられる。

あそびランド 水彩島



向橋開門体馬突



都立現代美術館



高田八幡宮大祭



高田八幡宮



小名木川五木亭



イ信号訓練



放水訓練



カヌー体験



和舟体験

あそびランド ^{すい さい しま} 水彩島 の1年

春

- お花見
- ようこそ新入生



花見



- 水彩フェスティバル
- ビアガーデン
 - 夏祭り
 - 水彩フェスティバル

夏



舟あそび

秋

- いかだレース
- バーベキュー大会
- JAZZフェスティバル



バーベキュー大会

- 船に乗ったサンタさん
- 年越しカウントダウン
- どんと焼き

冬



水球対決